

## グループCSRビジョン

企業が社会において持続的に発展していくためには、お客さま、株主、取引先はもとより、社会から信頼されなければなりません。インテックグループは、企業も従業員一人ひとりも高い倫理観に基づき、良識ある、そして熱意ある事業活動と社会貢献活動を続けてまいります。この基本的な考えに基づき、グループ各社と全社員の固い決意のもと、ここにCSRビジョンを定めます。

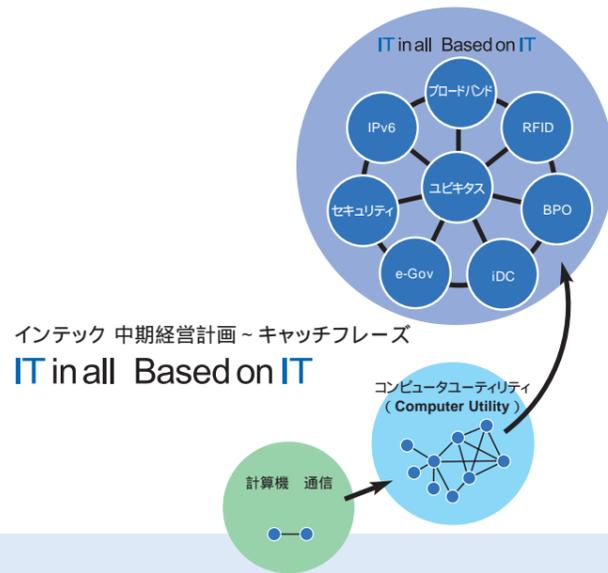
高品質の情報・通信サービスを提供します  
安全で安心な情報・通信サービスを提供することで社会に貢献します。「品質のインテックグループ」として、信頼性の高いサービスを提供し、お客さまの企業価値増大を図り、社会の発展に貢献します。

フェアプレイで臨みます  
お客さま、株主、取引先、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーのみなさまにあらゆる場面で公正に対応し、誠実に行動します。高い倫理観に基づき法令を遵守し公正な競争を行うとともに、関係する全てのみなさまとの揺るぎない信頼関係を、私たちの基盤である「技術力」と企業文化である「まじめさ」で築き上げていきます。

かけがえのない地球を守り引き継ぎます  
環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識するとともに、持続可能な社会の発展のために、従業員一人ひとりが自らできる具体的な活動を実践します。また、情報・通信サービスの提供を通して、お客さまの経営の効率化、省エネルギー化を支援し、環境負荷の低減に貢献します。私たちの子供の世代に、さらにその子供の世代にと、かけがえのない地球を引き継いでいきます。

社会に貢献できる人材を育てます  
地域社会や国際交流などの様々な場面で奉仕し活躍できる、高い能力と幅広い人間性を備えた人材の育成を図ります。従業員は高い目標を掲げて自己革新に取り組み、会社は従業員の長所を積極的に評価してその成長を支援します。従業員同士が切磋琢磨し、従業員と会社がともに成長できる職場環境を作っていきます。

信頼と心を通わせます  
通信手段としての情報・通信サービスを提供するだけでなく、「お客さまと信頼を通わせる企業=通信企業」として、また「人と人との心を通わせる企業=通心企業」として、あたたかみのある事業活動を、グローバルに展開してまいります。



インテック 中期経営計画～キャッチフレーズ  
IT in all Based on IT

インテック中期経営計画  
IT in all Based on IT  
をキャッチフレーズとします。

グループの中核企業であるインテックにおいても、平成19年4月から第14次経営計画(3カ年計画)がスタートしました。この経営計画では引き続き、「IT in all Based on IT」をキャッチフレーズとします。「IT in all」は社会システムのみならず自動車や家電製品など生活全般に情報技術が浸透し、高い利便性をもたらしている現状ならびに未来を表している豊かな社会生活が実現されること

と同時に、この人類共通の知的財産であるITをベースにお客さま、社会に貢献して「IT」と「IT」インテックの強い決意を表したものです。

また、3カ年の中期ビジョンは、確固たる存在感「Solid Presence」を有する企業へとしました。確固たる存在感を創り出すのは、新しい事業に挑戦し続けるインテックの姿勢であり、確かな技術力とサービス品質であり、それらによつて得られるお客さまからの信頼であることと考えています。

基本方針には、万全の情報セキュリティを掲げました。創業40年を超えるインテックの基盤は、ネットワークやアウトソーシングなど24時間365日の高信頼サービスの提供であり、それらで培ったお客さまからの信頼です。これまで以上に情報セキュリティの強化を徹底し万全の情報セキュリティを確立することでお客さまからの信頼を得、これをインテックのブランドとしていきたいと思えます。

また、アウトソーシングおよびネットワーク事業の競争力強化と、業種別ソリューション事業の強化を図るとともに、新技術を早期に取り入れ実用技術へ展開できる体制を強化し、お客さまのニーズの変化や技術の進歩に対応してまいります。

## インテックグループ

# 自立と連携による グループ総合力の強化 新中期経営計画

インテックグループはグループ企業価値を一層高めるべく、昨年10月、純粋持株会社インテックホールディングスを設立し持株会社体制に移行しました。新体制のもと、平成19年4月から初の中期経営計画(3カ年計画)をスタートさせました。

インテックグループ中期経営計画  
事業規模の拡大を通して  
社会的責任を果たす

インテックホールディングスの第1次中期経営計画は、事業の拡大とグループの連携を通してこれまで以上にグループの総合力を発揮して社会に貢献することにより、企業としての社会的責任を果たしていくことを計画の柱としています。

そのためには、事業競争力の強化が不可欠です。研究開発へ積極的に取り組み、その成果を新事業・新サービスへの創出につなげていくとともに、重点事業への経営資源の集中投入や、長期的展望に立った事業の育成を進めていきます。また、M&Aによる事業規模の拡大や新事業・新技術の獲得にも積極的に取り組みます。

平成22年3月期には、売上高1500億円、経常利益11億円を目指します。

この新しい中期経営計画策定にあたって、「グループCSRビジョン」を新たに制定しました。これはインテックグループが、そしてグループの社員一人ひとりが倫理観を持って社会の中で様々な活動をしていく際の指針となるものです。

## 売上、利益とも過去最高 平成19年3月期決算



インテックホールディングスの第1期(平成19年3月期)連結決算は、売上高1154億8300万円、営業利益95億8800万円、経常利益83億9100万円、当期純利益49億6000万円となりました。これは、インテックの平成18年3月期連結決算と比較すると、売上高で51%、営業利益で97%、経常利益で159%の増加であり、当期純利益についても、固定資産の減損会計の影響により損失が発生した前期に比べて大幅に改善しました。売上高、営業利益、経常利益はいずれも3期連続で過去最高を更新しました。

この要因は、主力の情報・通信事業が金融機関の統合案件、製造業向け基幹システムの大型開発等により好調に推移したこと、および有利子負債の削減による金融収支が改善したことなどがあげられます。

平成20年3月期は、引き続き主力の情報・通信事業が業績を牽引すると予想しており、情報セキュリティ対策や人材育成の費用を吸収し4期連続の増収増益となる見通しです。

配当は、業績が予想を上回る結果となったため、期末配当予想の7円から1円増配し8円とさせていただきます。今期は、中間期、期末それぞれ9円の年間18円を計画しています。